

## 東日本大震災より1年を経て ～ 井上眼科病院グループの取り組み ～

平成23年3月11日の東日本大震災発生より、1年余りが経過いたしました。これまでの当グループの災害支援活動および防災対策について報告いたします。

### ■ 義援金の募集

患者さまや職員より寄せられた義援金は、読売光と愛の事業団に寄贈しました。ご協力をいただきました皆さまには、心より感謝申し上げます。

### ■ 井上眼科病院災害支援チームの派遣

NPO法人日本ユニバーサルデザイン研究機構震災対策チームの協力を得て、宮城県気仙沼市の離島・大島(面積9.05km<sup>2</sup>、人口約3,200人)において災害支援活動を行いました。平成23年5月24日～26日には、医師・看護師・視能訓練士・眼鏡加工士の計4名が329名を診察、平成23年6月18日～20日には、医師・看護師・視能訓練士の計4名が362名を診察、平成23年8月6日～8日には、医師・看護師・視能訓練士・眼鏡加工士の計4名が364名を診察しました。活動を通して、患者さまに向きあうことの大切さや、現地ボランティアなど関係者との連携の重要性を改めて実感しました。この経験を今後の診療活動にも活かしていきます。

### ■ 施設環境の整備

お茶の水・井上眼科クリニック18階にコンタクトレンズ外来を統合するに当たって、19・20階と同じくユニバーサルデザインを取り入れました。誰もが利用しやすい施設は、災害時の迅速な避難誘導にも役立ちます。また、LED照明の使用や、断熱フィルム窓への貼り付けなど、節電に努めています。同院はビルの高層階に位置しておりますが、耐震診断の結果、新耐震基準および改正建築基準法を満たしていることが確認できました。どうぞ、ご安心ください。

### ■ 訓練の実施・食糧の備蓄

災害発生時に備えて、マニュアルの見直しや館内放送の訓練などを行ないました。また、帰宅困難者向けに食糧を備蓄しています。今後も、引き続き災害対策に力を入れていきます。

一日も早い被災地の復興を心よりお祈り申し上げます。



## ホームページをリニューアルしました

知りたい情報を探しやすいように、デザインの変更や情報の整理を行ないました。また、「ロービジョン対応の画面」や「文字サイズの変更」を取り入れています。

患者さまやご家族さま、ご自分にあった眼科をお探しの方、医療関係者の皆さまなどに役立つ情報を掲載していますので、ぜひご利用ください。

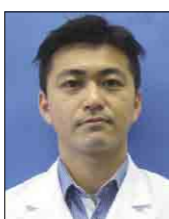
### 井上眼科病院グループ

<http://www.inouye-eye.or.jp>



井上眼科 検索

## 入局医師の紹介



### 井上眼科病院 方倉 聖基 (かたくら せいき) 医師

二月より井上眼科病院に勤務しています。一般診療からしばらく離れていたため、毎日が勉強です。豊富な症例に直面する多忙な外来に圧倒され、まだまだ慣れない日々と格闘していますが、早く戦力となれるよう精進してまいります。御指導・御鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 高津川 ～日本初の女性眼科医 右田アサ～

井上眼科病院 名誉院長  
若倉雅登(著)  
青志社刊  
発売 2012年4月  
定価1,600円(税別)



## 131年の歴史の中で

昨年、私ども井上眼科は130周年の節目を迎え、記念講演会などさまざまな行事が執り行われました。その翌年の今年には131周年ということになります。ここで、井上眼科グループのスタッフ医師の人事が大きく変わり、私は10年間勤めた井上眼科病院の院長を3月末で退任させていただきました。

さて、初代の井上達也が駿河台の地に興した井上眼科病院は、眼科専門病院として長い歴史を刻んできたわけですが、この中で、私が院長を務めたのは全体の1割にも満たない10年余でしかありません。しかし、その間に私は、大学病院勤務時代の約20年間には、お粗末なことについて気付かなかった数々のことを学び、さまざまな思いが去来しました。

他の診療科で重病と言え、死に直結するものですが、眼科においては死には直結しません。見え方が悪い、眼が鬱陶しいといった状況下で生き続けなければならないのです。それは、場合によっては死より厳しい試練です。「死んだ方がまし」という患者さんの眩きを外来で何度となく聞きました。眼科の疾患は、たとえ軽くとも日々の生活に大きな影響を与え、その人が人間らしく生きようとすることへの大きな妨げになります。その厳しさを眼科専門病院は一番実感しているわけですが、眼科疾患や視覚障害に対する社会の理解や、福祉の手当の不十分さはまことに寒い限りです。私はたびたび機会をとらえてそう指摘してきましたが、病院や医師だけでなく、患者さん自身がもっと声を大にしてそのこ

### 井上眼科病院 名誉院長 若倉 雅登

とを世にアピールしなければ、なかなか力にならないと思います。

当院の歴史の中では、多くの優れた眼科医が育成され、輩出されました。これも重要な病院の役目だと思います。その中で、日本最初の眼科女医、右田アサという方が当院出身であることを知り、私はこの方のことを詳しく調べ、現代の眼科女医さんの悩みや、日本の眼科医療の問題をも絡めながら小説に仕立てました。四月に青志社から「高津川～日本初の女性眼科医 右田アサ」という題で出版されます。皆さまには是非読者になっていただきたく願っております。

今後は名誉院長としての仕事をさせていただきながら、引き続き一般の方々や、社会への啓発活動はしてゆくとともに、



# 井上眼科病院グループは130周年の節目を終え、2012年4月より新体制で臨みます。

## 井上眼科病院 院長退任のご挨拶



若倉 雅登 医師

1999年1月に当院副院長に着任しましたが、僅か13年の間に当院は、施設の規模の拡大だけでなく、患者数、手術数、病院の信頼、医療の質、学問的基盤において大きな変革を遂げました。

先代の故井上治郎先生は、大学助教授をしていた私に、当院の学問的な面の活性化と、当院を私の専門である神経眼科のメッカにすることを命じ、2002年に第十代院長に任ずると、個人病院から社会の病院への脱皮に協力せよと求めました。多くの方々に支えられ、及ばずながら13年間を務めることができ、成果も幾分かは上げられたと思っています。

特に、学問の面では医師は勿論、コメディカル

スタッフの発表も多くなり、一定の評価を受けていることは喜ばしいことです。

私が最も崇敬した治郎先生のご長男井上賢治先生は、医師としても、理事長としても成長されました。後顧の憂いなく、託すことができます。

病院は患者さまとともになければ成立しません。支えて下さったすべての患者さま、職員の皆様、関係企業の皆様に深く感謝し、退任の辞とします。ありがとうございました。

◎尚、若倉雅登医師は、4月より同院の名誉院長として診療を行います。

## 井上眼科病院 院長就任のご挨拶



第11代 院長  
井上 賢治 医師

井上眼科病院は、1881年に私の高祖父にあたる井上達也が創立以来、民間の眼科専門病院として131年を迎えることができました。

そして、この度、若倉先生より引き継ぎ、第11代目の院長に就任する運びとなりました。

当院には、2002年4月に入局し、緑内障センター長を経て2006年に外来部門を統合した「お茶の水・井上眼科クリニック」の院長に就任しました。外来部門の統合の際には、患者さまに使いやすい施設づくりのために「ユニバーサルデザイン」の考え方を導入し、患者さまが安全に安心して診療を受けられる環境を目指して

まいりました。

病院も、2008年に入院と手術を主体にしてリニューアルを行いました。今後もさらなる病棟の居住性の追求や、日帰り手術や緊急手術に対応できる体制の充実などを考えております。また、ロービジョンのケアにも注力してまいりたいと思っています。

これからも井上眼科病院は、グループの中核として、「患者さま第一主義」を実践しつつ、病院組織の充実、医療サービスの向上などに医師、職員一同、努力を惜しまないつもりですので、引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

## お茶の水・井上眼科クリニック 院長就任のご挨拶



岡山 良子 医師

この度、「お茶の水・井上眼科クリニック」の院長を拝命することになりました。一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、「井上眼科病院」創立130周年という、記念すべき節目を迎えることができました。これも地域の諸先生方、当院の諸先輩方、ともに働く職員の皆さん、そして私どもの医療活動を評価してくださっている患者さまのお蔭と、この場をお借りして感謝申し上げます。

入局以来、病院の基本は外来診療にあると考えてきました。

いつも患者さまに寄り添い、そして真っ直ぐにむきあう。それが、病院の理念である「患者さま第一主義」に通じると思います。患者さまから信頼される、患者さまの視点に立ったそんな診療活動をこれからも貫いていきたいとかがえています。

病院運営は若き井上理事長におまかせするとして、私は患者さまには「この病院を受診してよかった!」、職員の皆さんには「働いてよかった!」と思ってもらえるような「優しい病院」を目指してまいりたいと思っています。

どうか、宜しくお願い申し上げます。

## 西葛西・井上眼科病院 院長退任のご挨拶



宮永 嘉隆 医師

新しい医療の出発点、医の原点は何であるかが分かるまで。と思いこの病院に來させていただいたのがちょうど2000年4月でした。爾来、今日まで無事過ごせたことに感謝したいと思います。今は亡き井上治郎先生、若々しい賢治先生に御指導を受けながら過ごしたこの12年、私の人生で最も勉強になった月日のように思います。その間、いろいろな出来事がありました。充実した診療が出来て心が満たされた日々もありました。思うような診療が出来ず悔しく思ったこともありました。医療は医師一

人では成立しない、関わるもの皆が協力し合っ初めて成り立つことも実感しました。

眼科医として約50年、今ふり返ると、医の道は険しい。そして傷つき易い。そして最後に医の原点には愛しか残らない。もう少しだけ診療に参加させていただこうと思っています。長い間ほんとうにありがとうございました。

◎尚、宮永嘉隆医師は、4月より同院の名誉院長として診療を行います。

## 西葛西・井上眼科病院 院長就任のご挨拶



堀 貞夫 医師

平成24年4月から西葛西・井上眼科病院長を拝命致しました。65歳という年齢を重ねておりますが、薄学であり病院長の重責をひと感じております。

本年3月に定年退職した東京女子医科大学を含め、大学を卒業して医師になってから40年間のうち、米国留学の3年間を除いて大学から離れたことがありませんでした。地域医療には今まで深く立ち入りしておりませんでした。患者さまと身近なお付き合いをする姿勢で診療したいと思います。

糖尿病眼合併症、網膜静脈閉塞症、加齢黄斑変性、網膜剥離などの網膜硝子体疾患を専門にしておりますが、手術症例はやはり白内障が最も多く、他に緑内障や外眼疾患などの手術を数多く経験してまいりました。

江戸川区の住民の皆さまを中心に、隣接する江東区や浦安市などの足の便を利用していただける地域の患者さまに、最新の、そして地域に密着した信頼と安心の医療を提供することを目指したいと思います。

### 堀 貞夫 (ほり さだお)

#### ■ 略 歴

1972年 3月	群馬大学医学部卒業
1976年 3月	群馬大学大学院終了
1976年 9月	米国留学 (Schepens Eye Research Institute, Boston)
1979年 9月	東京大学医学部眼科入局
1981年10月	東京大学医学部眼科講師
1988年 4月	東京女子医科大学糖尿病センター眼科助教授
1990年 8月	東京女子医科大学糖尿病センター教授
1998年 4月～	東京女子医科大学眼科 主任教授
2005年 4月～	2010年 3月 東京女子医科大学病院 副院長
2008年 6月～	2011年 3月 東京女子医科大学 理事
2012年 3月	東京女子医科大学 定年退職
2012年 4月	西葛西・井上眼科病院 院長

#### ■ 所属学会

- 日本眼科学会 (評議員、監事)
- 日本医師会
- 日本糖尿病眼学会 (理事)
- 日本眼科医会
- 日本糖尿病学会 (評議員)
- 日本眼科手術学会
- 日本糖尿病合併症学会 (幹事)
- 東京都医師会
- 日本網膜硝子体学会 (理事)

## お茶の水だより

### 眼科ドックを受診してみませんか？

2012年4月より、お茶の水・井上眼科クリニックでは、「眼」に特化した「眼科ドック」を開設しました。基本コース(約60分、8,400円(税込))とスペシャルコース(約120分、21,000円(税込))があり、一般の健康診断には含まれない項目も検査いたします。自覚症状のない病気の早期発見、治療にもつながります。「眼」の健康診断をしてみませんか？詳細は同院ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】 電話：03-3295-7735

## 西葛西だより

2012年4月より、西葛西・井上眼科病院の診療時間を、下記の通り変更いたします。

午前の診療時間 午前9時～午後11時30分

午後の診療時間 午後2時～午後4時30分